播磨ミステリーハント

播磨町の歴史や偉人の「?」と「!」について、秘められたトピックスなども交えながら紹介します。

文責 播磨町郷土資料館 館長 宮柳靖
☎079(435)5000

Mystery.11

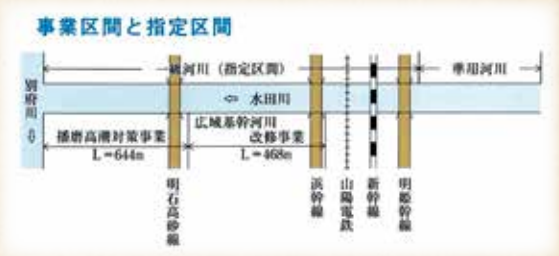
水田川は溝だった!?

播磨町には2つの川が流れています。中央を流れる全長約8kmの喜瀬川は2級河川(県指定)で、西の端をかすめるように流れる流路延長約5kmの水田川は1級河川(国指定)です。正確には、明姫幹線までの約2kmが1級河川で、新井(しんゆ)との合流地点(平岡町二俣 神鋼社宅すぐ東)までの約1kmが準用河川(市町指定)、その上流は普通河川(水路)です。水田川は別府川に合流し、別府川の起点は1級河川の加古川です。川は、長さや幅に関係なく幹川(かんせん)(本流)が1級河川だと、支川も1級河川になります。

播磨町を流れる水田川は、川幅が13～14mで、くねくねと大きく蛇行しながら流れています。この川が、昭和の初めまで50～60cmの溝だったと知る人は、ほとんどいないようです。蓮花寺から西の辺り一帯は土地が低く、雨が降るとなかなか水が引かないことから「水田」と呼ばれていました。当時は、溝だったのでもっと曲がりくねっており、曲がり角のあちこちに沼地ができていました。そのため、上流で大雨が降るとたちまち氾濫し、田んぼは水浸しになったようです。

昭和30年、土地改良事業で川幅を3mに広げる工事が始まり、昭和45年から倍の6mにする工事が行われました。水田川の名前が、いつ付けられたのか定かではありませんが、拡幅に伴い水田川と呼ばれるようになったと考えています。

▲新井との合流地点　左が水田川、右が新井



昭和58年には、「新井」との交差地点(のちに合流)までの約3kmが準用河川になりました。上流の開発により流れ込む大量の水を下流に流すため、拡幅工事が昭和60年から播磨町で、翌年加古川市で始まりました。さらに、平成4年、明姫幹線までの区間が1級河川に指定され、別府川から浜幹線までの拡幅工事が、県によって本格的に始まりました。現在は、山陽電車と新幹線がすぐ上流に見える水田橋まで完成しています。この1級河川と準用河川の区間約3kmを水田川ととらえ、この合流地点を川の始まりと考えている人も多いようです。ここに住む古老に尋ねると、上流も水田川と呼んでいるそうです。しかし、ここから上流は川幅が狭くなり、新興住宅地や団地の中を流れているため、これを川だと思っている人は少ないようです。

お詫びと訂正　広報はりま1月号のミステリーハントの本文で、別府鉄道の制服を寄贈していただいた方のお名前を「中川吉郎さん」と誤って記載しました。正しくは「中谷吉郎さん」です。訂正してお詫びします。

町の人口　1月1日現在　住民基本台帳人口＋外国籍人口。（　）は前年比。
34,830人（+12人）　男…17,095人（+10人）　女…17,735人（+2人）　世帯数…14,293世帯（+7世帯）

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association